



有形文化財（工芸品）

35. 梵鐘 1口

- 指定年月日 昭和37年2月13日（1962）
- 寸法 総高117.5cm 口径68.2cm
- 所在地 三崎町粟津2-23
- 所有者 琴江院

昭和17年（1942）の金属類供出で、珠洲仏教会の申請により、珠洲に残された3点の梵鐘の中では、最も新しい寛延3年（1750）の鑄造である。千光寺の梵鐘よりは少し大きい、乗光寺のものより総高で20.5cm、口径で12.9cm小さく造られている。越中高岡の鑄物師の作であるが、寒雉の作品と形状はほとんど変わらない。現代の梵鐘は総じて肉厚で、口径に対して鐘身が長めで、全体がずんどう気味であるのに対し、江戸時代のものには笠部から草の間まで、やさしい拵がりを見せる曲面に優美さがある。草の間にはそれぞれ、牡丹を中央にその左右に唐獅子を陽鑄してある。池の間の四面には銘文が彫り込まれている。

（一区・四区は全文省略）

（二区は本文省略）

于時文政五星舎亥黙敦祥夏五月穀旦

吉祥山琴江院 現住蘭溪謹誌

（三区）

寛延三年 十一月吉日

高岡住人鑄物師 金守八郎右衛門

宝曆四甲年正月吉日 之求

加州住人 宮崎寒雉直家

銘文によれば、高岡の鑄物師が鑄造したものを、宝曆4年（1754）に寒雉直家が買い取り、それがいつ琴江院にもたらされたか明示されていないが、鑄造72年後の文政5年（1822）に琴江院蘭溪の銘文が刻まれたことになる。